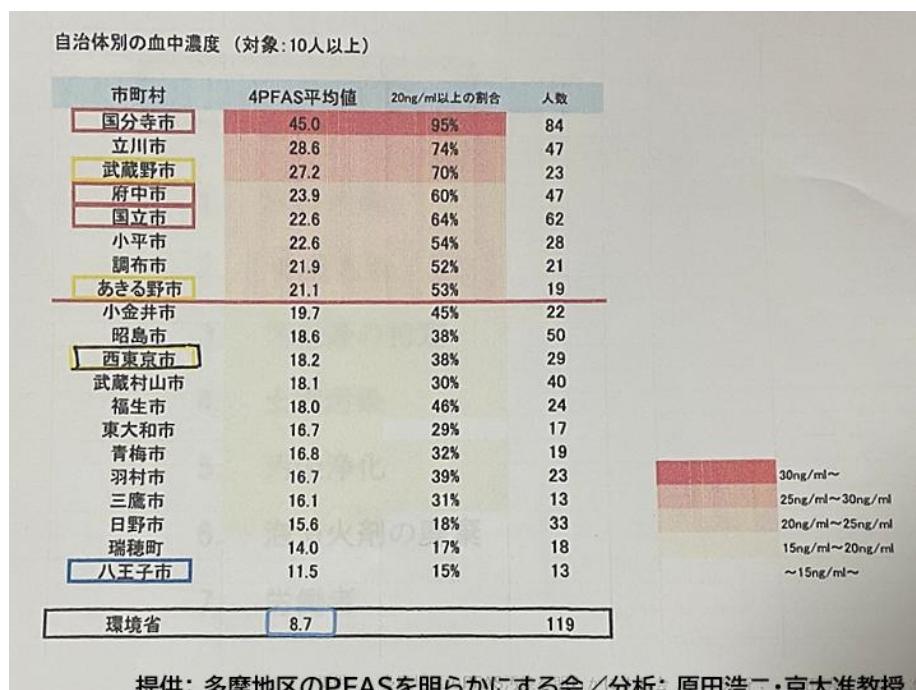


不思議の国より (No.4) (2026.2)

Alice(西東京)

西東京市に来てから、「横田基地」をよく耳にするようになった。と言っても直線距離で明石から西宮ほど離れているのだが、なにせ大東京多摩地区の中にディズニーランド14個分の治外法権アメリカが存在し、その上空は日本の飛行機が飛べないし、欠陥機オスプレイの昼夜を問わぬ訓練で、この数ヶ月でも民家にパラシュートを2回落としている。

基地内でも PFAS を含む泡消火剤の漏出事故を何度も起こした事を粘り強い住民の追求で最近認め、近隣住民が実施した血中濃度検査では米国の指標値($20\text{ng}/\text{ml}$)を約半数が越えていた。(国分寺市の84人の平均値に至っては 45ng で95%が 20ng を超えていた！)



それが我が西東京市にも地下水の下流で到達し、住民と共に、共産党の大竹あつ子市会議員が市所有震災用井戸を調査させたところ日本が認める $50\text{ng}/\text{l}$ 前後を超えた高濃度の井戸が13か所中6ヶ所の結果が出た。市は震災井戸は生活用水なので健康被害はないというが、子どもには体内に溜まり易く小学校の校庭芝生散水用は避けるべきと申し入れている。現在では欧米の指標値は $4\text{ng}/\text{l}$ なのに日本の $50\text{ng}/\text{l}$ は緩すぎると問題になっている。

1月17日、近くの公民館で PFAS 問題の若きホープ松島京太・東京新聞記者の話を聞きに行った。折しも阪神淡路大震災31年目での時のアスベストなどを含んだ瓦礫が明石川上流で埋められ、PFAS 問題を引き起こしているのを感じながら。彼は日米地位協定などで縛られた米国の特権はあるが、結局は物言えない日本政府の問題で、それを動かすのは私たちだ。私たちの健康問題としてしつこく追っていかねばならない。

やはり政府にしつかりものを言い、行動を起こす大切さを力説された。(Alice)

(編集者の注釈)

日本国内では、PFAS の血中濃度が「この数値を超えたら健康被害がある」という明確な基準値はまだ定められていません。PFAS の性質の複雑さや、人への影響が個人差や化合物ごとに異なること、長期的なデータが不足しているためです。

一方、欧米では、PFAS の健康影響に関する研究が進んでおり、下記が目安とされています。

なお、飲料水中の濃度の単位は「**ng/ℓ**」で、血中濃度の単位は「**ng/mL**」です。ご注意ください。**mℓ**は mL と記載されることもあります。

<PFAS の血中濃度と健康への影響の海外での目安>

血中濃度	健康への影響
2 ng/mL以下	健康への影響は見込まれない
2~20 ng/mL	感受性の高いグループで健康に影響を及ぼす可能性
20 ng/mL以上	健康に影響を及ぼすリスクが高まる

(出典:米国科学・工学・医学アカデミー)

